



26.2.19  
杉並区広報課

一筆一筆に願いを込めた、江戸から続く縁起文字

## 「橘流寄席文字展」開催中！

現在、杉並芸術劇場『座・高円寺』（高円寺北2-1-2）のGalleryアソビバで、「橘流寄席文字展」を開催しています（主催：座・高円寺）。

寄席の看板やポスター、めくりに書かれている粋な書体「寄席文字」。その家元橘右近（たちばな・うこん）さんの伝統を受け継ぐ、橘流寄席文字一門の作品が一堂に揃う貴重な機会です！

寄席文字とは、寄席の看板やめくりなどに用いられる文字です。もともと、江戸時代に寄席のビラ、今でいうポスターの文字として誕生し、華やかな江戸町文化の一端を支えてきました。

会場では、この“寄席文字”を正當に伝承する橘流一門から9名の作品、約50点が一堂に会し展示されています。橘流寄席文字は東京の寄席4軒（新宿末廣亭・上野鈴本演芸場・浅草演芸ホール・池袋演芸場）や、国立演芸場などその他多くの劇場、めくり、広告などで見ることができますが、一門の作品を集めて同時に展示するのは今回が初めてです。



会場で、まず目に飛び込んでくるのは、長さ2m、幅40cmほどの大きな紙に書かれた一枚看板。これは、橘流寄席文字の家元橘右近さんが昭和40年代に書き、新宿末廣亭で使われたものです。

寄席文字の特徴は、「お客様が隙間なくいっぱいに入ってくださいるように」と地色の白を埋めるように太い線で形作られていること。さらに、「興業や芸が尻上がりに良くなるように」という思いから、横の線は右上がり書かれます。会場に展示された一枚看板には、黒く太い文字が、たっぷりの墨で紙を埋め尽くすように書かれ、まさにこの思いがひと筆ひと筆に込められた、迫力ある作品となっています。

他にも、噺家さんのお祝いに送られる招木板の版下や、300人近くにもよる演芸家の名前を細かい文字で一文字ずつ記した「落語協会演芸家総覧」、池袋演芸場で一年を通してほぼ毎日開かれている寄席の番組表など、職人の丁寧な仕事ぶりと、寄席文字が落語の舞台を支えていることを実感できる作品が並びます。

画一的なフォントではなく、一文字一文字手書きだからこそ伝わる個性や温もり、文字に込められた橘流寄席文字一門の想いを、ぜひ、会場で感じてみてください。

### 第4回高円寺演芸まつり関連企画 『橘流寄席文字展』

【日時】2月4日（火）～3月2日（日）午前9時～午後10時 無休

【場所】座・高円寺（高円寺北2-1-2）Galleryアソビバ 無料

詳細は Gallery アソビバ <http://za-koenji.jp/detail/index.php?id=999>

【問い合わせ先】座・高円寺 TEL 3223-7500